

106

contents

田中米吉——“ドッキング”からの視線
常設展
第61回山口県美術展覧会
HEART2007
年間スケジュール

天花

TENGE



田中米吉(1925-) 「ドッキング BW. 20」 1968年 山口県立美術館蔵

特別展

田中米吉

—「ドッキング」からの視線

9/28fri~10/28sun

表紙作品解説

田中米吉(1925-) 「ドッキング BW. 20」 1968年
アルミ・鉄・アクリルラッカー 155.0×187.5×184.5cm
山口県立美術館蔵

写真ではこの作品の面白さは体験できません。写真と文字の説明によって、これがどのような作品なのか頭の中で理解することはできません。

白と黒に塗り分けられた様々な直径の輪が間隔を置いて同心円状に吊り下げられています。鑑賞者はその正面に立って作品と向かいあいます。ある特別なポイントを探して、前に出てみたり後ろに下がってみなくてはなりません。いくつもの輪がちょうど重なって見える、あるポイント。そこを見つけた時、あなたの目にはいったいどんな風にこの作品が見えるでしょうか。

この作品の作者田中米吉は、1960年代半ばから山口に制作の拠点を置き、作品を作り続けている立体作家です。この40年以上、彼が作品を通じて求めているのは空間の“ドッキング”。ある局面と局面が結びついて、新しい空間を作り上げることです。そこに生まれるのは、日常私たちが目にしていない感覚とはちょっと異なる世界です。それに気が付くためにはかなり意識して作品を「見」ないといけません。彼の作品を見ることは、日頃はなにげなく行っている「見る」という行為を注意深く検証することにつながります。

さて、表紙の作品「ドッキングBW.20」。あるポイントで、全ての輪がまるで1枚の的のようにぴったりと重なって見えるのです。実際は間隔を置いて設置されている輪ですが、そのポイントではそれぞれの輪の遠近が把握できなくなってしまいます。手前にあるのか奥にあるのか。普通は簡単にわかりそうなものなのに、見れば見るほどわからなくなる。輪とその間の空間が“ドッキング”して生まれる空間。それを見た時に襲われる不思議な感覚は実際に作品の前に立ってみなくては体験できないものです。ぜひ展示室で体験を。

(当館学芸員 前田淳子)

ドッキング

「ドッキング」からの視線展で
見えます。参考作品も

H I

小林和作室

「雲谷派④」 10/2~10/28
「雪舟」 10/30~11/25

10月30日からは重要文化財3点を含む当館所蔵の雪舟画を展示し、また稀にしか見ることのできない、雪舟の若い頃の作品も展示いたします。それに先立ち、10月2日から28日まで、雪舟の画風を受け継いだ雲谷派の作品をご紹介します。

雪舟「山水図巻」1474年
山口県立美術館蔵

香月泰男室

「近代の立体」 10/2~12/24

人のかたちを作り出すことは、美術の歴史の中でも最も古い伝統を持つものでしょう。この展示では、戸張孤雁(1882-1927)や植木茂(1913-1984)らの、人体を対象とした具象から抽象へわたる彫刻をご紹介します。

戸張孤雁「虚無」1920年
山口県立美術館蔵

郷土工芸室

「彫る・切る・削る」 10/2~12/24

芸術家は石、木、土といった素材を彫ったり、切ったり、削ったりしてさまざまな作品を作ります。P・ヴォーコス(1924-2002)、澄川喜一(1931-)らが、「彫る・切る・削る」という技法を用いて創り出した多様な形をご覧ください。

澄川喜一「おうぎ」1981年
山口県立美術館蔵

美術館ボランティアによる「ギャラリー・トーク」

「こどものためのギャラリー・トーク みんなでみよう」
特別展「田中米吉」展をみていきます。

日 時：会期中の土曜日 11:00~11:30
集合場所：常設展示室入口
参加費：無料(大人は展覧会観覧料が必要です)

「常設展ギャラリー・トーク 'みる' を一緒に楽しもう！」

日 時：毎週土曜日 13:30~14:00
集合場所：常設展示室入口
参加費：無料(常設展観覧料が必要です)





1925年 山口市大内御堀(現 山口市宮島町)に生まれる。教鞭をとりながら美術家として活動始めるが1961年、教職を辞し、上京。読売アンデパンダン展などで作品を発表する。1965年、点字にインスピレーションを受け、プラスチックや金属を使った立体の作品を制作。父親の病気により山口に帰り家業を継ぎながら制作し、山口を制作の拠点として作品発表を続ける。鑑賞者が身体的に作品に関わることで自らの視覚による認識が揺さぶられる作品を発表している。

1971年/山口県芸術文化振興奨励賞 1982年/山口県選賞芸術部門受賞 1985年/第11回現代日本彫刻展(山口県宇部市)大賞受賞 2004年/地域文化功労者 文部科学大臣表彰

田中米吉
たなか よねきち

形をたどる



「ドッキング(表面)No.86-1985」 1986 撮影:安室重男

この作品は山口では展示不可能。なぜなら、これは埼玉県立近代美術館の建物の壁を突き破って、建物と一体になっている作品だから。

建物の外から棒が突き刺さり、展示室の中に飛び出しています。棒の表面には美術館の外の壁と同じタイルが貼られ、まるで建物の一部が突き刺さっているようです。美術館の外壁を内側の壁に結びつける(ドッキングさせる)大きな棒。この作品を持っていくことはできませんが、展覧会では外と内を結びつける作品を展示します。外と内がドッキングしているのを確かめるためには、自分が動いて作品の形をたどるのがイチバンです。



「ドッキング」からの視線

「なく見なくてはいけない」と思いこんではいませんか?
「視線」展では私たちが作品に積極的に向かっていくと、
「思考」作品も交えて田中米吉の作品を楽しむポイントを紹介します。

展

第61回山口県美術展覧会

8月23日(木)~9月9日(日)

9:00~17:00 (入館は16:30まで) 月曜休館

山口県立美術館

大賞

吉村 芳生 (山口市) 「徳地に住んで見えてくるもの(色鉛筆で描く・・・)」



吉村作品は、自らがその生活を営む場所に立ち、目の前の光景を改めて見つめ、それをもっとも素朴な、誰もが手にすることのできる色鉛筆という道具で描くという、絵を描くということが芸術表現である前に、生きることと同義の営みであることを思い出させる作品であり、また、そうであるからこそ、その境地における制作が絵画の潜在的な魔力を呼び起し、「コスモス」という花に姿を変えた生と死の溶け合った混沌の世界の美を見事に現出させ得たといえるのではないのでしょうか。(南薫宏)

*審査評より抜粋

優秀賞

- 岩崎 貴宏 (広島県) 「After SESSHU」
- 上野ユリオ (山口市) 「個人情報保護法」
- 大瀬戸照夫 (光市) 「杉時雨」
- 山科 君代 (山口市) 「みのり2」
- 山根 秀信 (山口市) 「静物(レジ袋)」

審査員

- 中村政人 (東京藝術大学絵画科准教授)
- 福永 治 (国立新美術館学芸課長)
- 南薫 宏 (女子美術大学教授、熊本市現代美術館長)



審査風景



展 第61回山口県美術展覧会
8月23日(木)~9月9日(日)
商 アート・マート
8月18日(土)~9月9日(日)
遊 アート・ルート 一の坂
8月4日(土)~9月9日(日)
録 カタログ・コレクション
8月18日(土)~9月9日(日)
映 「こまどりえい」 こまねこ
8月16日(土)~9月9日(日)

主催: ミュージアム・タウン・ヤマグチ 2007 実行委員会
山口県立美術館 / 山口市商店街連合会 / 山口商工会議所 /
山口県立大学国際文化学部 (文化創造学科) / 山口県 / 山口市
山口県教育委員会、山口県文化連盟、NPO法人こどもステーション山口
特別協力: エアエム山口
お問い合わせ先: ミュージアム・タウン・ヤマグチ 2007 実行委員会事務局
〒753-0089 山口市龍山町3-4 TEL.083-925-7788 (山口県立美術館)

<http://www.yma-p.jp>

第1回山口県総合芸術文化祭 ミュージアム・タウン・ヤマグチ 2007

2007-2008

schedule

山口県立美術館 平成19年度年間スケジュール

山口県立美術館ニューズ「天竺」第106号 平成19年9月1日発行

特別展

常設展

4		4/10		雲谷派①		日本画の流れ①
5				5/6 5/8		狩野芳崖
6	6/1~6/10 日本工芸会山口支部設立50周年記念「第30回記念伝統工芸新作展」 6/15~6/24 第46回日本現代工芸美術展		全工と赤間礪 清彩画の(はじまり)	雲谷派②	5/20 5/22	日本画の流れ②
7	7/24~7/29 第25回山口県書道連盟展	7/1 7/3		雲谷派③		森斐新
8	8/23~9/9 山口県総合芸術文化祭		十二代三輪休雷	昭和の香り① 香月春男の夏		6/26 日本画の流れ③
9	9/28~10/28 田中米吉 —“ドッキング”からの視線	9/30 10/2		昭和の香り② 香月春男の動物園	7/29	7/22
10	11/10~12/16 モディリアーニと妻ジャンヌの物語展		彫る・切る・削る 近現代の立体	雲谷派④ 10/28 10/30 雪舟 11/25 11/27 日本人の見たヨーロッパ		
11		12/24 12/26		1/14 1/16 小林和作のコレクション		日本画の流れ④
12			絵付けされた陶器	山陽小野田市岩崎寺の仏像		2/3
1	2/6~2/10 山口県立大学卒業制作展			2/17 2/19		
2	2/14~2/17 山口芸術短期大学卒業制作展			風景画の世界	雲谷派⑤	
3	2/21~2/24 山口大学卒業制作展			3/9 3/11		現代美術入門 I 一色一
	3/5~3/8 第42回光展	4/6		雲谷派⑥		日本画の流れ⑤
						2/26

Information

■休館日

月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)
年未年始(12月28日~1月3日)

■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金

常設展:一般190(160)円 学生120(100)円

()内は20名以上の団体料金

特別展:別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する方は無料。

山口県立美術館
YAMAGUCHI PREFECTURAL
ART MUSEUM

〒753-0089

山口市亀山町3-1

TEL:083-925-7788

FAX:083-925-7790

http://www.art-museum.pref.yamaguchi.lg.jp/



発行 山口県立美術館 印刷 森重印刷株式会社